

Gura ライブラリリファレンス

Updated: March 11, 2011

copyright © 2011 Yutaka SAITO

目次

1. この文書について	7
2. 組込み関数	7
2.1. インスタンス生成関数	7
2.2. 制御構文	8
2.2.1. 繰り返し	8
2.2.2. 条件分岐	8
2.2.3. 例外処理	9
2.2.4. switch 文	9
2.3. データ変換	9
2.4. クラス操作	10
2.5. ストリーム操作	10
2.6. 変数スコープ操作	10
2.7. イテレータ生成	10
2.8. フォーマット変換	11
2.9. モジュール	11
2.10. データ型チェック	11
2.11. 演算・統計	12
2.12. テキスト表示	12
2.13. スクリプト評価	13
2.14. 乱数	13
2.15. その他	13
3. 組込みクラス	13
3.1. binary クラス	13
3.1.1. インスタンスの生成	13
3.1.2. メソッドリファレンス	13
3.2. codec クラス	14
3.2.1. インスタンスの生成	14
3.2.2. メソッドリファレンス	14
3.3. color クラス	14
3.3.1. インスタンスの生成	14
3.3.2. メンバ変数	14
3.3.3. メソッドリファレンス	15
3.4. datetime クラス	15
3.4.1. インスタンスの生成	15
3.4.2. メソッドリファレンス	15
3.5. dict クラス	15

3.5.1.	インスタンスの生成.....	15
3.5.2.	メソッドリファレンス.....	15
3.6.	environment クラス.....	16
3.6.1.	インスタンスの生成.....	16
3.6.2.	メソッドリファレンス.....	16
3.7.	error クラス	17
3.7.1.	インスタンスの生成.....	17
3.7.2.	メソッドリファレンス.....	17
3.8.	expr クラス	17
3.8.1.	インスタンスの生成.....	17
3.8.2.	メソッドリファレンス.....	17
3.9.	function クラス	19
3.9.1.	インスタンスの生成.....	19
3.9.2.	メソッドリファレンス.....	19
3.10.	image クラス	20
3.10.1.	インスタンスの生成	20
3.11.	メソッドリファレンス	20
3.12.	iterator クラス.....	21
3.12.1.	インスタンスの生成	21
3.12.2.	メソッドリファレンス	21
3.13.	list クラス.....	22
3.13.1.	インスタンスの生成	22
3.13.2.	メソッドリファレンス	22
3.14.	matrix クラス.....	26
3.14.1.	インスタンスの生成	26
3.14.2.	メソッドリファレンス	26
3.15.	palette クラス.....	27
3.15.1.	インスタンスの生成	27
3.15.2.	メソッドリファレンス	27
3.16.	semaphore クラス	27
3.16.1.	インスタンスの生成	27
3.16.2.	メソッドリファレンス	27
3.17.	stream クラス.....	27
3.17.1.	インスタンスの生成	27
3.17.2.	メソッドリファレンス	28
3.18.	string クラス	29
3.18.1.	インスタンスの生成	29
3.18.2.	メソッドリファレンス	29
3.19.	timedelta クラス	30

3.19.1.	インスタンスの生成	30
3.19.2.	メソッドリファレンス	30
4.	sys モジュール	31
4.1.	関数	31
4.2.	変数	31
5.	fs モジュール	31
5.1.	関数	32
5.2.	fs.stat クラス	32
6.	os モジュール	32
6.1.	関数	33
7.	path モジュール	33
7.1.	関数	33
8.	math モジュール	34
8.1.	関数	34
9.	string モジュール	36
9.1.	関数	36
10.	time モジュール	36
10.1.	関数	36
11.	hash モジュール	37
11.1.	関数	37
12.	ネットワーク – net.http モジュール	37
12.1.	関数	37
13.	イメージファイル – bmp モジュール	38
14.	イメージファイル – png モジュール	38
15.	イメージファイル – jpeg モジュール	38
16.	イメージファイル – msicon モジュール	38
17.	イメージファイル – ppm モジュール	38
18.	イメージファイル – gif モジュール	38
19.	二次元イメージ描画 – cairo モジュール	40
19.1.	命名規則	40
19.2.	関数	41
19.3.	cairo.surface クラス	41
19.4.	cairo.pattern クラス	42
19.5.	cairo.region クラス	42
19.6.	cairo.context クラス	43
20.	canvas モジュール	47
21.	フォント描画 – freetype モジュール	47
22.	三次元描画 – opengl および glu モジュール	47
22.1.	命名規則	47

23.	高速画面描画 – sdl モジュール	47
23.1.	命名規則	47
23.2.	sdl.Cursor クラス	47
23.3.	sdl.Timer クラス	47
23.4.	sdl.PixelFormat クラス	47
23.5.	sdl.PixelFormat クラス	47
23.6.	sdl.Overlay クラス	48
23.7.	sdl.Joystick クラス	48
23.8.	sdl.AudioSpec クラス	48
23.9.	sdl.AudioCVT クラス	48
23.10.	sdl.CD クラス	49
24.	グラフィカルユーザインターフェース – tcl および tk モジュール	49
24.1.	モジュール構成	49
24.2.	命名規則	49
24.3.	イベントの扱い	49
24.4.	モジュール関数	50
24.5.	image クラスへの追加メソッド	51
24.6.	tk.Widget クラス	51
24.6.1.	ウィジェット生成メソッド	54
24.7.	tk.Menu クラス	56
24.8.	tk.Canvas クラス	56
24.9.	tk.CanvasItem クラス	56
24.10.	tk.CanvasTag クラス	56
24.11.	tk.Text クラス	56
24.12.	tk.TextTag クラス	56
24.13.	tk.Notebook クラス	56
24.14.	tk.Treeview クラス	56
24.15.	tk.TreeviewItem クラス	56
24.16.	tk.TreeviewTag クラス	56
24.17.	tk.FontT クラス	56
24.18.	tk.Image クラス	56
24.19.	注意事項	56
25.	データベース – sqlite3 モジュール	57
25.1.	関数	57
25.2.	sqlite3 クラス	57
26.	オーディオ	57
26.1.	wav	57
27.	アーカイブファイル – gzip モジュール	57
28.	アーカイブファイル – bzip2 モジュール	57

29.	アーカイブファイル – zipfile モジュール	58
29.1.	関数	58
29.2.	zipfile.zipfile クラス	58
29.3.	zipfile.stat クラス	58
30.	アーカイブファイル – tar モジュール	59
30.1.	関数	59
30.2.	tar.tar クラス	59
30.3.	tar.stat クラス	59
31.	テキスト処理 – re モジュール	60
31.1.	関数	60
31.2.	re.match クラス	61
31.3.	re.pattern クラス	61
31.4.	string クラスへの追加メソッド	61
32.	テキスト処理 – csv モジュール	61
32.1.	関数	62
32.2.	stream クラスへの追加メソッド	62
33.	テキスト処理 – xml モジュール	62
33.1.	関数	62
33.2.	stream クラスへの追加メソッド	62
34.	テキスト処理 – yaml モジュール	62
34.1.	関数	62
34.2.	ストリームクラスへの追加メソッド	63
35.	プラットフォーム – win32 モジュール	63
35.1.	win32.regkey クラス	63
36.	プラットフォーム – uuid モジュール	64
37.	開発ツール	64
37.1.	lets_module	64
37.2.	module_builder	64

1. この文書について

スクリプト言語 Gura の本体や標準添付のモジュールで定義されている関数やクラスの仕様について説明します。内容は Gura v0.1.0 の実装に基づきます。

2. 組み込み関数

2.1. インスタンス生成関数

`binary(buff*)`

複数のデータを結合した結果を `binary` 型として返します。引数 `buff` には `string` 型または `binary` 型のデータを 0 個以上指定します。データを指定しない場合は、空の `binary` 型データを生成します。これは、バイナリリテラルで `b''` と指定したのと同じです。`string` 型は UTF-8 エンコードの内部表現をそのままバイナリ列として結合します。

`codec(encoding:string, process_eol:boolean => false)`

指定したエンコーディング名に対応する `codec` 型インスタンスを返します。引数 `encoding` にエンコーディング名を指定します。対応する `codec` がない場合はエラーになります。`process_eol` は行末コードの変換の有無を表し、`true` を指定すると CR-LF コードと LF コードの変換を行います。`false` の場合はこの変換を行いません。

`color(args+):map`

指定した RGB 値または名前に対応する `color` 型インスタンスを返します。以下の呼び出し形式があります。

`color(name, alpha?:number)`

引数 `name` に、`string` 型または `symbol` 型で色の名前を指定します。色の名前は Web 標準カラー名および X11 色名称の中のひとつを選択します。引数 `alpha` にはアルファ値を 0 から 255 の間の数値で指定します。

`color(red:number, green:number, blue:number, alpha?:number)`

引数 `red`、`green` および `blue` に 0 から 255 の間の数値で RGB 値を指定します。引数 `alpha` にはアルファ値を 0 から 255 の間の数値で指定します。

`dict(elem[]?):[icase] {block?} / %{block}`

`dim(n+:number) {block?}`

指定の要素数を持った多重リストを生成して返します。例えば、`dim(2, 3)` は `[[nil, nil, nil], [nil, nil, nil]]` というリストを生成します。要素の値はデフォルトで `nil` ですが、`block` を指定するとブロックの評価値を要素の値とします。ブロックの評価の際 `|i0:number, i1:number, ...|` という形式のブロック引数を渡します。`i0`, `i1` ... はループインデクスです。

`image(args+):map {block?}`

```
lambda(`args*) {block} / &{block}
```

```
list(iter+:iterator), xlist(iter+:iterator)
```

```
set(iter+:iterator):[and,or,xor], xset(iter+:iterator):[and,or,xor]
```

```
matrix(nrows:number, ncols:number, value?)
```

```
object()
```

```
pack(format:string, value*):map
```

```
palette(type:symbol)
```

```
semaphore()
```

2.2. 制御構文

2.2.1. 繰り返し

```
cross (`expr+) {block}
```

```
for (`expr+) {block}
```

```
repeat (n?:number) {block}
```

```
while (`cond) {block}
```

2.2.2. 条件分岐

```
if (`cond) {block}
```

```
elsif (`cond) {block}
```



```
else() {block}
```

2.2.3. 例外処理

```
try() {block}
```

```
except(errors*:error) {block}
```

```
raise(error:error, msg:string => "error", value?)
```

2.2.4. switch 文

```
switch() {block}
```

```
case(`cond) {block}
```

```
default() {block}
```

2.3. データ変換

```
chr(num:number):map
```

```
int(value):map
```

```
ord(str:string):map
```

```
tonumber(value):map:[nil,zero,raise,strict]
```

```
tostring(value):map
```

```
tosymbol(str:string):map
```

```
hex(num:number, digits?:number):map:[upper]
```

2.4. クラス操作

```
class(superclass?:function):[static] {block?}
```

```
struct(`args+):[loose] {block?}
```

```
classref(type:expr):map
```

2.5. ストリーム操作

```
copy(src:stream, dst:stream, bytesunit:number => 65536):map:void {block?}
```

```
open(name:string, mode:string => "r", encoding:string => "utf-8"):map {block?}
```

```
readlines(stream?:stream):[chop] {block?}
```

2.6. 変数スコープ操作

```
scope(module?:module) {block}
```

```
extern(`syms+)
```

```
local(`syms+)
```

```
locals(module?:module)
```

```
outers()
```

```
typename(`value)
```

```
undef(`value+):[raise]
```

2.7. イテレータ生成

```
fill(n:number, value?) {block?}
```

```
interval(a:number, b:number, samples:number):map:[open,open_l,open_r] {block?}
```

```
iterator(value+)
```

```
range(num:number, num_end?:number, step?:number):map {block?}
```

2.8. フォーマット変換

```
format(format:string, values*):map
```

```
zip(values+) {block?}
```

2.9. モジュール

```
import(`module, `alias?):[overwrite] {block?}
```

```
module() {block}
```

2.10. データ型チェック

関数	説明
isbinary(value)	
isboolean(value)	
isclass(value)	
iscomplex(value)	
isdatetime(value)	
isdict(value)	
isenvironment(value)	
iserror(value)	
isexpr(value)	
isfunction(value)	
isiterator(value)	
islist(value)	
ismatrix(value)	
ismodule(value)	

<code>isnumber(value)</code>	
<code>issemaphore(value)</code>	
<code>isstring(value)</code>	
<code>issymbol(value)</code>	
<code>istimedelta(value)</code>	
<code>isuri(value)</code>	

`isdefined(`symbol)`

`isinstance(value, type:expr):map`

`istype(value, type:expr):map`

2.11. 演算・統計

`choose(index:number, values+):map`

`chooseif(flag:boolean, value1, value2):map`

`max(values+):map`

`min(values+):map`

`mod(n, m):map`

`in(n, m)`

2.12. テキスト表示

`print(value*):map:void`

`printf(format:string, values*):map:void`

`println(value*):map:void`

2.13. スクリプト評価

`eval(expr:expr):map`

`parse(code:string):map`

`parsestream(stream:stream):map`

2.14. 乱数

`rand(range?:number)`

`rands(num?:number, range?:number) {block?}`

2.15. その他

`dir(obj?)`

`help(func:function):map:void`

3. 組込みクラス

3.1. binary クラス

3.1.1. インスタンスの生成

- コード中にバイナリリテラルを記述すると、`binary` インスタンスの生成になります。
- 関数 `pack` でバイナリ列のフォーマット指定をし、数値や文字列を埋め込んだインスタンスを生成することができます。

3.1.2. メソッドリファレンス

`binary#add(buff+:binary)`

`binary#decode(codec:codec)`

`binary#dump():void:[upper]`

```
binary#each() {block?}
```

```
binary#len()
```

```
binary#pointer(offset:number => 0)
```

```
binary#store(offset:number, buff+:binary)
```

```
binary#stream()
```

```
binary#unpack(format:string, offset:number => 0)
```

```
binary#unpacks(format:string, offset:number => 0, cnt?:number)
```

3.2. codec クラス

3.2.1. インスタンスの生成

- 関数 `codec` でインスタンスを生成します。

3.2.2. メソッドリファレンス

```
codec#decode(buff:binary):map
```

```
codec#encode(string:string):map
```

3.3. color クラス

3.3.1. インスタンスの生成

- 関数 `color` でインスタンスを生成します。

3.3.2. メンバ変数

変数名	読み書き	説明
red	R/W	赤要素を 0 から 255 までの数値で表します
green	R/W	緑要素を 0 から 255 までの数値で表します
blue	R/W	青要素を 0 から 255 までの数値で表します

alpha	R/W	アルファ要素を 0 から 255 までの数値で表します
gray	R	グレイ値を取得します

3.3.3. メソッドリファレンス

```
color#html()
```

```
color#tolist(alpha:boolean => false)
```

3.4. datetime クラス

3.4.1. インスタンスの生成

- 関数 `time.datetime` で、年月日および時刻を指定したインスタンスを生成します。
- 関数 `time.time` で、時刻を指定したインスタンスを生成します。
- 関数 `time.today` で、今日の日付が入ったインスタンスを生成します。
- 関数 `time.now` で、現在の年月日および時刻が入ったインスタンスを生成します。

3.4.2. メソッドリファレンス

```
datetime#clrtzoff():reduce
```

```
datetime#format(format)
```

```
datetime#settzoff(mins:number):reduce
```

```
datetime#utc()
```

3.5. dict クラス

3.5.1. インスタンスの生成

- 辞書宣言 `%{...}` でインスタンスを生成します。
- 関数 `dict` でインスタンスを生成します。

3.5.2. メソッドリファレンス

```
dict#clear()
```

```
dict#erase(key):map
```

`dict#get(key, default?:nomap):map:[raise]`

`dict#gets(key, default?):map:[raise]`

`dict#haskey(key):map`

`dict#items() {block?}`

`dict#keys() {block?}`

`dict#len()`

`dict#set(key, value:nomap):map:void`

`dict#setdefault(key, default)`

`dict#sets(key, value):map:void`

`dict#store(elems?):reduce:[default] {block?}`

`dict#values() {block?}`

3.6. environment クラス

3.6.1. インスタンスの生成

3.6.2. メソッドリファレンス

`environment#eval(expr:expr):map`

`environment#lookup(symbol:symbol, escalate:boolean => true):map`

3.7. error クラス

3.7.1. インスタンスの生成

3.7.2. メソッドリファレンス

3.8. expr クラス

3.8.1. インスタンスの生成

3.8.2. メソッドリファレンス

`expr#block()`

`expr#car()`

`expr#cdr()`

`expr#child()`

`expr#each() {block?}`

`expr#exprname()`

`expr#getstring()`

`expr#getsymbol()`

`expr#getvalue()`

`expr#isassign()`

`expr#isbinary()`

`expr#isbinaryop()`

`expr#isblock()`

`expr#isblockparam()`

`expr#iscaller()`

`expr#iscontainer()`

`expr#isdictassign()`

`expr#isfield()`

`expr#isforce()`

`expr#isindexer()`

`expr#islister()`

`expr#isprefix()`

`expr#isquote()`

`expr#isstring()`

`expr#issuffix()`

`expr#issymbol()`

`expr#isunary()`

`expr#isunaryop()`

`expr#isvalue()`

`expr#left()`

`expr#right()`

`expr#tofunction(`args*)`

`expr#unquote()`

3.9. function クラス

3.9.1. インスタンスの生成

- 関数を定義すると、`function` インスタンスが生成されます。
- 関数 `lambda` でインスタンスを生成します。

3.9.2. メソッドリファレンス

`function#argsymbols()`

`function#expr()`

`function#fullname()`

`function#help(help?:string)`

`function#name()`

`function#setsymbol(symbol:symbol):reduce`

3.10. image クラス

3.10.1. インスタンスの生成

- 関数 `image` でインスタンスを生成します。
- イメージ操作に関わるモジュールに、`image` インスタンスを生成するものがあります。詳細は各モジュールの仕様を参照ください。

3.11. メソッドリファレンス

`image#allocbuff(width:number, height:number, color?:number):void`

`image#crop(x:number, y:number, width?:number, height?:number):map`

`image#delpalette():reduce`

`image#each(x?:number, y?:number, width?:number, height?:number, scandir?:symbol) {block?}`

`image#extract(x:number, y:number, width:number, height:number, element:symbol, dst):void`

`image#fill(color:color):void`

`image#fillrect(x:number, y:number, width:number, height:number, color:color):map:void`

`image#flip(orient:symbol):map`

`image#getpixel(x:number, y:number):map`

`image#paste(x:number, y:number, src:image, width?:number, height?:number, xoffset:number => 0, yoffset:number => 0, alpha:number => 255):map:reduce`

`image#putpixel(x:number, y:number, color:color):map:void`

```
image#read(stream:stream, imgtype?:string):map:reduce
```

```
image#reducecolor(palette?:palette)
```

```
image#resize(width?:number, height?:number):map:[box]
```

```
image#rotate(rotate:number, background?:color):map
```

```
image#setalpha(alphaKey:number, colorKey?:color, alphaRest:number => 255):reduce
```

```
image#size()
```

```
image#store(x:number, y:number, width:number, height:number, element:symbol, src):void
```

```
image#thumbnail(width?:number, height?:number):map:[box]
```

```
image#write(stream:stream, imgtype?:string):map:reduce
```

3.12. iterator クラス

3.12.1. インスタンスの生成

- 多くの生成方法があります。「Gura 言語マニュアル」のイテレータの章を参照ください。

3.12.2. メソッドリファレンス

イテレータが実装するメソッドは、リストのメソッドと大部分が共通しています。共通しているメソッドはリストのリファレンスに掲載していますので、そちらを参照ください。この項は、イテレータ特有のメソッドを示します。

```
iterator#delay(delay:number) {block?}
```

```
iterator#isinfinite()
```

```
iterator#next()
```

3.13. list クラス

3.13.1. インスタンスの生成

- リスト宣言 [...] や @{...} でインスタンスを生成します。
- 関数 list でインスタンスを生成します。

3.13.2. メソッドリファレンス

list#add(elem+):reduce

list#align(n:number, value?):map {block?} / iterator#align(n:number, value?)
{block?}

list#and() / iterator#and()

list#append(elem+):reduce

list#average() / iterator#average()

要素から平均値を算出し、結果を返します。

list#clear():reduce

要素をすべて取りのぞき、空のリストにします。これは破壊的メソッドです。

list#combination(n:number) {block?}

list#count(criteria?) / iterator#count(criteria?)

条件に合致する要素の数を返します。条件 criteria には値または関数を指定します。

criteria を省略すると、要素中で真値と判断できるものの数を返します。

criteria に値を指定した場合、その値と要素を比較し、等しいと判断したものの数を数えます。

criteria に渡す関数は、引数を一つとり boolean 値を返すものを指定します。list#count メソッドは要素をひとつずつ関数に渡し、帰ってきた true の数を数えます。

list#each() {block?} / iterator#each() {block?}

リストの要素を順に走査するイテレータを返します。ブロック引数を指定すると、要素ごとにブロックの内容を評価します。ブロック引数は |value, idx:number| となります。value が要素値、idx が走査インデックスです。

list#erase(idx*:number):reduce

list#filter(criteria) {block?} / iterator#filter(criteria) {block?}

`list#first()`

`list#flat()`

`list#fold(n:number, nstep?:number):[iteritem] {block?} / iterator#fold(n:number):[iteritem] {block?}`

`list#format(format:string):map / iterator#format(format:string) {block?}`

`list#get(index:number):map:flat`

`list#head(n:number):map {block?} / iterator#head(n:number):map {block?}`

`list#iscontain(value) / iterator#iscontain(value)`

`list#isempty()`

`list#join(sep:string => "") / iterator#join(sep?:string)`

`iterator#joinb()`

`list#last()`

`list#len() / iterator#len()`

`list#map(func:function) {block?} / iterator#map(func:function) {block?}`

`list#max():[index,last_index,indices] / iterator#max():[index,last_index,indices]`

`list#min():[index,last_index,indices] / iterator#min():[index,last_index,indices]`

`list#nilto(replace) / iterator#nilto(replace)`

`list#offset(n:number):map {block?} / iterator#offset(n:number) {block?}`

`list#or() / iterator#or()`

`list#pack(format:string) / iterator#pack(format:string) {block?}`

`list#permutation(n?:number) {block?}`

`list#pingpong(n?:number):[sticky,sticky_l,sticky_r] {block?} /
 iterator#pingpong(n?:number):[sticky,sticky_l,sticky_r] {block?}`

`iterator#print(stream?:stream)`

`list#printf(format:string):void / iterator#printf(format:string, stream?:stream)`

`iterator#println(stream?:stream)`

`list#rank(directive?):[stable] / iterator#rank(directive?) {block?}`

`list#reduce(accum) {block} / iterator#reduce(accum) {block}`

`list#replace(value, replace) / iterator#replace(value, replace)`

`list#reverse() {block?} / iterator#reverse() {block?}`

`list#round(n?:number) {block?} / iterator#round(n?:number) {block?}`

`list#shift():[raise]`

`list#shuffle():reduce`


```
list#since(criteria) {block?} / iterator#since(criteria) {block?}
```

```
list#skip(n:number):map {block?} / iterator#skip(n:number) {block?}
```

```
list#skipnil() {block?} / iterator#skipnil() {block?}
```

```
list#sort(directive?, keys[]?):[stable] / iterator#sort(directive?, keys[]?) {block?}
```

要素の順番を並べ替えた結果をイテレータで返します。リストで結果を得る場合はアトリビュート:stable を指定します。

並べ替えの順序はデフォルトで昇順ですが、引数 directive にシンボルまたは関数を指定することで順序を指示することができます。directive に、シンボル`ascend を指定すると昇順、シンボル`descend を指定すると降順になります。

directive に関数を渡す場合、この関数は二つの引数を取り、-1, 0, +1 のいずれかの整数値を返すものである必要があります。今、関数の一般式が $f(a, b)$ であるとする、以下のような値を返すようにします。

昇順: $a < b$ のとき -1, $a == b$ のとき 0, $a > b$ のとき +1

降順: $a > b$ のとき +1, $a == b$ のとき 0, $a < b$ のとき -1

sort メソッドは、デフォルトではリストの要素そのものの大小で並び替えを行います。引数 keys にリストを渡すと、これをキーとしてソート処理をします。keys の要素数はリストの要素数と同じでなければいけません。

アトリビュート:stable をつけると、ステイブルソートになります。大小比較が等しい要素が複数あったとき、それらの順序がソート前と同じである保障が得られます。

```
list#stddev() / iterator#stddev()
```

要素から標準偏差を算出し、結果を返します。

```
list#sum() / iterator#sum()
```

すべての要素を加算した結果を返します。

```
list#tail(n:number):map {block?} / iterator#tail(n:number) {block?}
```

```
list#variance() / iterator#variance()
```

要素から分散値を算出し、結果を返します。

```
list#while (criteria) {block?}
```

3.14. matrix クラス

3.14.1. インスタンスの生成

- マトリクス宣言 `@@{...}` でインスタンスを生成します。
- 関数 `matrix` でインスタンスを生成します。

3.14.2. メソッドリファレンス

`matrix#col(col:number):map`

`matrix#colsize()`

`matrix#each():[transpose]`

`matrix#eachcol()`

`matrix#eachrow()`

`matrix#inverse()`

`matrix#issquare()`

`matrix#row(row:number):map`

`matrix#rowsize()`

`matrix#set(value)`

`matrix#setcol(col:number, value)`

`matrix#setrow(row:number, value)`

`matrix#submat(row:number, col:number, nrow:number, ncol:number):map`

```
matrix#tolist():[flat,transpose]
```

```
matrix#transpose()
```

3.15. palette クラス

3.15.1. インスタンスの生成

- 関数 `palette` でインスタンスを生成します。

3.15.2. メソッドリファレンス

```
palette#each() {block?}
```

```
palette#nearest(color:color):map:[index]
```

```
palette#shrink():reduce
```

```
palette#updateby(image_or_palette):reduce:[shrink]
```

3.16. semaphore クラス

3.16.1. インスタンスの生成

- 関数 `semaphore` でインスタンスを生成します。

3.16.2. メソッドリファレンス

```
semaphore#release()
```

```
semaphore#session() {block}
```

```
semaphore#wait()
```

3.17. stream クラス

3.17.1. インスタンスの生成

- 関数 `open` でインスタンスを生成します。

3.17.2. メソッドリファレンス

`stream#close()`

`stream#compare(stream:stream):map`

`stream#dosmode(dos_flag:boolean):reduce`

`stream#peek(len?:number)`

`stream#print(values*):map:void`

`stream#printf(format:string, values*):map:void`

`stream#println(values*):map:void`

`stream#read(len?:number)`

`stream#readline():[chop]`

`stream#readlines(nlines?:number):[chop] {block?}`

`stream#readtext()`

`stream#readto(stream:stream, bytesunit:number => 65536):map:reduce {block?}`

`stream#seek(offset:number, origin?:symbol):reduce`

`stream#setencoding(encoding:string, dos_flag?:boolean)`

`stream#tell()`

```
stream#write(buff:binary):reduce
```

```
stream#writefrom(stream:stream, bytesunit:number => 65536):map:reduce {block?}
```

3.18. string クラス

3.18.1. インスタンスの生成

- コード中に文字列リテラルを記述すると、string インスタンスの生成になります。

3.18.2. メソッドリファレンス

```
string#align(len:number, padding:string => " "):map:[center,left,right]
```

```
string#capitalize()
```

```
string#each():map:[utf32] {block?}
```

```
string#eachline(nlines?:number):[chop] {block?}
```

```
string#encode(codec:codec)
```

```
string#endswith(suffix:string, endpos?:number):map:[icase]
```

```
string#escapehtml()
```

```
string#find(sub:string, pos:number => 0):map:[rev,icase]
```

```
string#format(values*):map
```

```
string#isempty()
```

```
string#left(len?:number):map
```

```
string#len()
```

`string#lower()`

`string#mid(pos:number => 0, len?:number):map`

`string#print(stream?:stream):void`

`string#println(stream?:stream):void`

`string#replace(sub:string, replace:string, count?:number):map:[icase]`

`string#right(len?:number):map`

`string#split(sep?:string, count?:number):[icase] {block?}`

`string#startswith(prefix:string, pos:number => 0):map:[icase]`

`string#strip():[both,left,right]`

`string#unescapehtml()`

`string#upper()`

3.19. timedelta クラス

3.19.1. インスタンスの生成

- 関数 `time.delta` でインスタンスを生成します。
- `datetime` インスタンス同士を引き算した結果は `timedelta` インスタンスです。

3.19.2. メソッドリファレンス

4. sys モジュール

Gura 本体の動作モードを変えたり、実行状態を得たりするモジュールです。

4.1. 関数

`sys.echo(flag:boolean)`

対話モードのとき、結果をエコーバックするか否かを設定します。`flag` に `true` を指定するとエコーバックが有効になります。

`sys.exit(status?:number)`

プログラムを終了します。`status` で終了コードを指定します。省略すると `0` になります。

`sys.listcodec()`

利用可能な文字コーデックの名前の一覧をリストで返します。

4.2. 変数

`sys` モジュールが定義・参照している変数は以下のとおりです。

変数	型	内容
<code>ps1</code>	<code>string</code>	対話モードで、インデントがかかっているときのプロンプト
<code>ps2</code>	<code>string</code>	対話モードで、インデントがかかっている間のプロンプト
<code>stdin</code>	<code>stream</code>	標準入力に使うストリーム
<code>stdout</code>	<code>stream</code>	標準出力に使うストリーム
<code>stderr</code>	<code>stream</code>	標準エラー出力に使うストリーム
<code>path</code>	<code>list</code>	モジュールのサーチパスを記述したリスト
<code>version</code>	<code>string</code>	Gura のバージョン番号
<code>build</code>	<code>symbol</code>	Gura をビルドした環境をシンボルで表す。`gcc`: Linux 環境の gcc, `bcc`: Windows 環境の Borland C, `msc`: Windows 環境の Visual Studio
<code>executable</code>	<code>string</code>	Gura 実行ファイルのフルパス名
<code>datadir</code>	<code>string</code>	Gura のデータディレクトリのフルパス名
<code>libdir</code>	<code>string</code>	Gura のライブラリディレクトリのフルパス名
<code>argv</code>	<code>list</code>	引数リスト。 <code>argv[0]</code> にはスクリプトの名前がフルパスで格納される

5. fs モジュール

ファイルシステムの操作をするモジュールです。このモジュールをインポートすることで、以下の関数の機能が拡張されます。

- `open` 関数でファイルシステム上のファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、ファイルシステム上のファイルパス名を指定できるようになります。
- `path.dir`, `path.walk`, `path.glob` 関数で、ファイルシステム上のディレクトリパスをサーチできるようになります。

5.1. 関数

`chdir(pathname:string):void`

`getcwd()`

`mkdir(pathname:string):map:void`

`remove(pathname:string):map:void`

`rename(src:string, dst:string):map:void`

5.2. fs.stat クラス

メンバ	データ型	内容
<code>pathname</code>	<code>string</code>	
<code>basename</code>	<code>string</code>	
<code>dirname</code>	<code>string</code>	
<code>size</code>	<code>number</code>	
<code>uid</code>	<code>number</code>	
<code>gid</code>	<code>number</code>	
<code>atime</code>	<code>datetime</code>	
<code>mtime</code>	<code>datetime</code>	
<code>ctime</code>	<code>datetime</code>	
<code>isdir</code>	<code>boolean</code>	
<code>ischr</code>	<code>boolean</code>	
<code>isblk</code>	<code>boolean</code>	
<code>isreg</code>	<code>boolean</code>	
<code>isfifo</code>	<code>boolean</code>	
<code>islnk</code>	<code>boolean</code>	
<code>issock</code>	<code>boolean</code>	

6. os モジュール

OS の操作をまとめたモジュールです。

6.1. 関数

`exec(pathname:string, args*:string):map`

`getenv(name:string):map`

`putenv(name:string, value:string):void`

7. path モジュール

パス操作をまとめたモジュールです。

7.1. 関数

`absname(name:string):map:[http]`

`basename(pathname:string):map`

`dir(pathname?:string, pattern*:string):map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?}`

`dirname(pathname:string):map`

`exists(pathname:string):map`

`glob(pattern:string):map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?}`

`join(paths+:string):map:[uri]`

`match(pattern:string, name:string):map:[icase]`

`split(pathname:string):map`

`splitext(pathname:string):map`

`stat(pathname:string):map`

```
walk(pathname?:string, maxdepth?:number, pattern*:string):map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?}
```

8. math モジュール

数学演算処理をまとめたモジュールです。

8.1. 関数

```
abs(num):map
```

```
acos(num):map
```

```
arg(num):map
```

```
asin(num):map
```

```
atan(num):map
```

```
atan2(num1, num2):map
```

```
bezier(nums[]+:number)
```

```
ceil(num):map
```

```
conj(num):map
```

```
cos(num):map
```

```
cosh(num):map
```

```
covariance(a:iterator, b:iterator)
```

```
cross_product(a[], b[])
```

`diff(expr:expr, var:symbol):map`

`dot_product(a[], b[])`

`exp(num):map`

`fft(seq[])`

`floor(num):map`

`imag(num):map`

`integral()`

`least_square(x:iterator, y:iterator, n:number => 1, var:symbol => x)`

`log(num):map`

`log10(num):map`

`norm(num):map`

`optimize(expr:expr):map`

`real(num):map`

`sin(num):map`

`sinh(num):map`

```
sqrt(num):map
```

```
tan(num):map
```

```
tanh(num):map
```

9. string モジュール

文字列処理をまとめたモジュールです。」

9.1. 関数

10. time モジュール

時刻操作をまとめたモジュールです。

10.1. 関数

```
clock()
```

```
datetime(year:number => 0, month:number => 1, day:number => 1,  
  hour:number => 0, min:number => 0, sec:number => 0, usec:number => 0,  
  minsoff?:number):map
```

```
delta(days:number => 0, secs:number => 0, usecs:number => 0, msecs:number => 0,  
  mins:number => 0, hours:number => 0, weeks:number => 0):map
```

```
isleap(year:number):map
```

```
monthdays(year:number, month:number):map
```

```
now():[utc]
```

```
parse(str:string):map
```

```
sleep(secs:number)
```

```
time(hour:number => 0, minute:number => 0, sec:number => 0, usec:number => 0):map
```

```
today():[utc]
```

```
weekday(year:number, month:number, day:number):map
```

11. hash モジュール

11.1. 関数

```
crc32(buff?:binary)
```

```
md5(buff?:binary)
```

```
sha1(buff?:binary)
```

12. ネットワーク – net.http モジュール

HTTP プロトコルのサーバとクライアント処理を提供するモジュールです。このモジュールをインポートすることで、以下の関数の機能が拡張されます。

- open 関数で HTTP プロトコルを通じたファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、HTTP のファイルパス名を指定できるようになります。

12.1. 関数

```
addproxy(addr:string, port:number, userid?:string, password?:string) {criteria?}
```

```
client(addr:string, port:number => 80, addrProxy?:string, portProxy?:number,  
  useridProxy?:string, passwordProxy?:string) {block?}
```

```
decquery(query:string)
```

```
server(addr?:string, port:number => 80) {block?}
```

```
splituri(uri:string)
```

```
uri(scheme:string, authority:string, path:string, query?:string, fragment?:string)
```

13. イメージファイル – bmp モジュール

image クラスに image#read() および image#write()

```
image#bmpread(stream:stream):reduce
```

```
image#bmpwrite(stream:stream):reduce
```

14. イメージファイル – png モジュール

```
image#pngread(stream:stream):reduce
```

```
image#pngwrite(stream:stream):reduce
```

15. イメージファイル – jpeg モジュール

```
image#jpegread(stream:stream):reduce
```

```
image#jpegwrite(stream:stream):reduce
```

16. イメージファイル – msicon モジュール

```
image#msiconread(stream:stream):reduce
```

```
image#msiconwrite(stream:stream):reduce
```

17. イメージファイル – ppm モジュール

```
image#ppmread(stream:stream):reduce
```

```
image#ppmwrite(stream:stream):reduce
```

18. イメージファイル – gif モジュール

```
image#gifread(stream:stream):reduce
```

```
image#gifwrite(stream:stream):reduce
```

```
image#gif$gctl, image#gif$gdesc
```

```
gif.graphiccontrol
```

メンバ	データ型	内容
DisposalMethod	symbol	`none, `keep, `background, `previous
UserInputFlag	boolean	
TransparentColorFlag	boolean	
DelayTime	number	
TransparentColorIndex	number	

```
gif.imagedescriptor
```

メンバ	データ型	内容
ImageLeftPosition	number	
ImageTopPosition	number	
ImageWidth	number	
ImageHeight	number	
LocalColorTableFlag	boolean	
InterlaceFlag	boolean	
SortFlag	boolean	
SizeOfLocalColorTable	number	

メンバ	データ型	内容
hdr\$Signature		
hdr\$Version		
lsd\$LogicalScreenWidth		
lsd\$LogicalScreenHeight		
lsd\$GlobalColorTableFlag		
lsd\$ColorResolution		
lsd\$SortFlag		
lsd\$SizeOfGlobalColorTable		
lsd\$BackgroundColorIndex		
lsd\$BackgroundColor		
lsd\$PixelAspectRatio		
cmmt\$CommentData		

ptxt\$TextGridLeftPosition		
ptxt\$TextGridTopPosition		
ptxt\$TextGridWidth		
ptxt\$TextGridHeight		
ptxt\$CharacterCellWidth		
ptxt\$CharacterCellHeight		
ptxt\$TextForegroundColorIndex		
ptxt\$TextBackgroundColorIndex		
ptxt\$PlainTextData		
ptxt\$ApplicationIdentifier		
ptxt\$AuthenticationCode		
ptxt\$ApplicationData		

19. 二次元イメージ描画 - cairo モジュール

Cairo のオフィシャルサイトは <http://cairographics.org/> です。

19.1. 命名規則

コンテキストは `cairo.context` クラスのインスタンスで表されます。コンテキストを操作する関数は、`"cairo_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_set_source_rgb(cr, r, g, b)` は `cairo.context#set_source_rgb(r, g, b)` となります。

パターンは `cairo.pattern` クラスのインスタンスで表されます。パターンを操作する関数は、`"cairo_pattern_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_pattern_set_filter(pattern, filter)` は `pattern.set_filter(filter)` となります。

グリフは `cairo.glyph` クラスのインスタンスで表されます。グリフを操作する関数は、`"cairo_glyph_"` とった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_glyph_`

パスは `cairo.path` クラスのインスタンスで表されます。パスを操作する関数は、`"cairo_path_"` とった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_path_`

サーフェースは `cairo.surface` クラスのインスタンスで表されます。サーフェースを操作する関数は、`"cairo_surface_"` とった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_surface_`

デバイスは `cairo.device` クラスのインスタンスで表されます。デバイスを操作する関数は、`"cairo_device_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_device_`

フォントオプションは `cairo.font_options` クラスのインスタンスで表されます。フォントオプションを操作する関数は、`"cairo_font_options_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_font_options_`

矩形は `cairo.rectangle` クラスのインスタンスで表されます。矩形を操作する関数は、`"cairo_rectangle_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_rectangle_`

テキストエクステンツは `cairo.text_extents` クラスのインスタンスで表されます。テキストエクステンツを操作する関数は、`"cairo_text_extents_"` をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_text_extents_`

フォントエクステン트는 `cairo.font_extents` クラスのインスタンスで表されます。フォントエクステン트를操作する関数は、"`cairo_font_extents_`" をとった名前のメソッドになります。例えば、`cairo_font_extents_` マクロ変数は、その変数が属するグループに共通してつけられるプレフィックスをとりのぞき、大文字をすべて小文字にした名前のシンボルで表されます。例えば、`CAIRO_LINE_CAP_BUTT` や `CAIRO_LINE_CAP_ROUND` は、それぞれシンボル ``butt`` および ``round`` で表されます。

19.2. 関数

```
emf_create(filename:string, width_in_points:number, height_in_points:number) {block?}

image_create(width:number, height:number, color?:color) {block?}

pattern_create_color(color:color, alpha?:number)

pattern_create_for_surface(surface:surface)

pattern_create_linear(x0:number, y0:number, x1:number, y1:number)

pattern_create_radial(cx0:number, cy0:number, radius0:number, cx1:number, cy1:number, radius1:number)

pattern_create_rgb(red:number, green:number, blue:number)

pattern_create_rgba(red:number, green:number, blue:number, alpha:number)

pdf_create(stream:stream, width_in_points:number, height_in_points:number) {block?}

ps_create(stream:stream, width_in_points:number, height_in_points:number) {block?}

svg_create(stream:stream, width_in_points:number, height_in_points:number) {block?}
```

19.3. cairo.surface クラス

```
surface#copy_page():reduce

surface#finish():reduce

surface#flush():reduce

surface#get_content()

surface#get_device()

surface#get_device_offset()

surface#get_fallback_resolution()

surface#get_font_options()

surface#get_mime_data()

surface#has_show_text_glyphs()
```

`surface#mark_dirty():reduce`

`surface#mark_dirty_rectangle(x:number, y:number, width:number, height:number):reduce`

`surface#set_device_offset(x_offset:number, y_offset:number):reduce`

`surface#set_fallback_resolution(x_pixels_per_inch:number, y_pixels_per_inch:number):reduce`

`surface#set_mime_data():reduce`

`surface#show_page():reduce`

19.4. cairo.pattern クラス

`pattern#add_color_stop_rgb(offset:number, red:number, green:number, blue:number):reduce`

`pattern#add_color_stop_rgba(offset:number, red:number, green:number, blue:number, alpha:number):reduce`

`pattern#get_color_stop_count()`

`pattern#get_color_stop_rgba(index:number)`

`pattern#get_extend()`

`pattern#get_filter()`

`pattern#get_linear_points()`

`pattern#get_matrix()`

`pattern#get_radial_circles():reduce`

`pattern#get_rgba()`

`pattern#get_surface()`

`pattern#set_extend(extend:symbol):reduce`

`pattern#set_filter(filter:symbol):reduce`

`pattern#set_matrix(matrix:matrix):reduce`

19.5. cairo.region クラス

`region#contains_point(x:number, y:number)`

`region#contains_rectangle(rectangle:rectangle_int)`

`region#equal(region:region)`

`region#intersect(other:region)`

```
region#intersect_rectangle(rectangle:rectangle_int)

region#is_empty()

region#subtract(other:region)

region#subtract_rectangle(rectangle:rectangle_int)

region#translate(dx:number, dy:number)

region#union(other:region)

region#union_rectangle(rectangle:rectangle_int)

region#xor(other:region)

region#xor_rectangle(rectangle:rectangle_int)
```

19.6. cairo.context クラス

```
context#arc(xc:number, yc:number, radius:number, angle1?:number, angle2?:number):map:reduce

context#arc_negative(xc:number, yc:number, radius:number, angle1?:number, angle2?:number):map:reduce

context#clip():reduce

context#clip_extents()

context#clip_preserve():reduce

context#close_path():reduce

context#copy_clip_rectangle_list()

context#copy_page():reduce

context#copy_path()

context#copy_path_flat()

context#curve_to(x1:number, y1:number, x2:number, y2:number, x3:number, y3:number):map:reduce

context#device_to_user(x:number, y:number)

context#device_to_user_distance(dx:number, dy:number)

context#fill():reduce

context#fill_extents():reduce

context#fill_preserve():reduce
```

```
context#font_extents()  
context#get_antialias()  
context#get_current_point()  
context#get_dash()  
context#get_fill_rule()  
context#get_font_face()  
context#get_font_matrix()  
context#get_font_options()  
context#get_group_target()  
context#get_line_cap()  
context#get_line_join()  
context#get_line_width()  
context#get_matrix()  
context#get_miter_limit()  
context#get_operator()  
context#get_scaled_font()  
context#get_source()  
context#get_target()  
context#get_tolerance()  
context#glyph_extents()  
context#has_current_point()  
context#identity_matrix():reduce  
context#in_clip(x:number, y:number)  
context#in_fill(x:number, y:number)  
context#in_stroke(x:number, y:number)  
context#line_to(x:number, y:number):map:reduce
```

```
context#mask(pattern:pattern):reduce

context#mask_surface(surface:surface, surface_x:number, surface_y:number):reduce

context#move_to(x:number, y:number):map:reduce

context#new_path():reduce

context#new_sub_path():reduce

context#paint():reduce

context#paint_with_alpha(alpha:number):reduce

context#path_extents()

context#pop_group()

context#pop_group_to_source():reduce

context#push_group():reduce

context#push_group_with_content(content:symbol):reduce

context#rectangle(x:number, y:number, width:number, height:number):map:reduce

context#rel_curve_to(dx1:number, dy1:number, dx2:number, dy2:number, dx3:number, dy3:number):map:reduce

context#rel_line_to(dx:number, dy:number):map:reduce

context#rel_move_to(dx:number, dy:number):map:reduce

context#reset_clip():reduce

context#restore():reduce

context#rotate(angle:number):reduce

context#save():reduce {block?}

context#scale(sx:number, sy:number):reduce

context#select_font_face(family:string, slant:symbol, weight:symbol):reduce

context#set_antialias(antialias:symbol):reduce

context#set_dash(dashes[:number, offset:number):reduce

context#set_fill_rule(fill_rule:symbol):reduce

context#set_font_face():reduce
```

```
context#set_font_matrix(matrix:matrix):reduce
context#set_font_options(options:font_options):reduce
context#set_font_size(size:number):reduce
context#set_line_cap(line_cap:symbol):reduce
context#set_line_join(line_join:symbol):reduce
context#set_line_width(width:number):reduce
context#set_matrix(matrix:matrix):reduce
context#set_miter_limit(limit:number):reduce
context#set_operator(op:symbol):reduce
context#set_scaled_font():reduce
context#set_source(source:pattern):reduce
context#set_source_color(color:color, alpha?:number):reduce
context#set_source_rgb(red:number, green:number, blue:number):reduce
context#set_source_rgba(red:number, green:number, blue:number, alpha:number):reduce
context#set_source_surface(surface:surface, x:number, y:number):reduce
context#set_tolerance(tolerance:number):reduce
context#show_glyphs(glyphs[:glyph]):reduce
context#show_page():reduce
context#show_text(text:string):reduce
context#show_text_glyphs():reduce
context#stroke():reduce
context#stroke_extents()
context#stroke_preserve():reduce
context#text_extents(text:string)
context#text_path(text:string):map:reduce
context#transform(matrix:matrix):reduce
```

```
context#translate(tx:number, ty:number):reduce
```

```
context#user_to_device(x:number, y:number)
```

```
context#user_to_device_distance(dx:number, dy:number)
```

20. canvas モジュール

21. フォント描画 - freetype モジュール

22. 三次元描画 - opengl および glu モジュール

OpenGL は...

オフィシャルサイトは <http://www.opengl.org/> です。

22.1. 命名規則

23. 高速画面描画 - sdl モジュール

SDL は...

オフィシャルサイトは <http://www.libsdl.org/> です。

23.1. 命名規則

23.2. sdl.Cursor クラス

```
Cursor#FreeCursor():void
```

23.3. sdl.Timer クラス

```
Timer#RemoveTimer()
```

23.4. sdl.PixelFormat クラス

```
PixelFormat#GetRGB(pixel:number)
```

```
PixelFormat#GetRGBA(pixel:number)
```

```
PixelFormat#MapRGB(r:number, g:number, b:number)
```

```
PixelFormat#MapRGBA(r:number, g:number, b:number, a:number)
```

23.5. sdl.PixelFormat クラス

```
Surface#ConvertSurface(fmt:PixelFormat, flag:number) {block?}
```

```
Surface#DisplayFormat() {block?}
```

```
Surface#DisplayFormatAlpha() {block?}
```

```
Surface#FillRect(rect:Rect, color:Color):map:void
```

```
Surface#Flip()  
Surface#GetClipRect()  
Surface#LockSurface()  
Surface#PutSurface(src:Surface, x:number => 0, y:number => 0):map  
Surface#SaveBMP(file:string):void  
Surface#SetAlpha(flag:number, alpha:number)  
Surface#SetClipRect(rect:Rect):map:void  
Surface#SetColorKey(flag:number, key:number)  
Surface#SetColors(colors[]:Color, firstcolor:number => 0)  
Surface#SetPalette(flags:number, colors[]:Color, firstcolor:number => 0)  
Surface#UnlockSurface():void  
Surface#UpdateRect(x:number => 0, y:number => 0, w:number => 0, h:number =>  
0):void  
Surface#UpdateRects(rects[]:Rect):void
```

23.6. sdl.Overlay クラス

```
Overlay#DisplayYUVOverlay(dstrect:Rect)  
Overlay#LockYUVOverlay()  
Overlay#UnlockYUVOverlay():void
```

23.7. sdl.Joystick クラス

```
Joystick#JoystickClose():void  
Joystick#JoystickGetAxis(axis:number)  
Joystick#JoystickGetBall(ball:number)  
Joystick#JoystickGetButton(button:number)  
Joystick#JoystickGetHat(hat:number)  
Joystick#JoystickIndex()  
Joystick#JoystickNumAxes()  
Joystick#JoystickNumBalls()  
Joystick#JoystickNumButtons()  
Joystick#JoystickNumHats()
```

23.8. sdl.AudioSpec クラス

```
AudioSpec#MixAudio(src:AudioSpec, volume:number)
```

23.9. sdl.AudioCVT クラス

```
AudioCVT#ConvertAudio()
```


23.10. sdl.CD クラス

```

CD#CDClose():void
CD#CDEject()
CD#CDPause()
CD#CDPlay(start:number, length:number)
CD#CDPlayTracks(start_track:number, start_frame:number, ntracks:number,
nframes:number)
CD#CDResume()
CD#CDStatus()
CD#CDStop()
CD#GetTrack(n:number):void

```

24. グラフィカルユーザインターフェース - tcl および tk モジュール

Tcl/Tk のオフィシャルサイトは <http://www.tcl.tk/> です。

24.1. モジュール構成

モジュールは、Tcl インタープリタとのインターフェースを提供するモジュール `tcl.azd` と、そのモジュールを使って Tk の機能を実現するモジュール `tk.az` からなります。Tcl/Tk には多くの関数がありますが、`tcl.azd` や `tk.az` の中でそれらの関数を個別に実装しているわけではありません。ユーザが呼び出したメソッド名から動的にメソッドを生成して実行しています。

24.2. 命名規則

ウィジェットを生成する手続きは、親ウィジェットを表す変数のメソッドとして実装されます。

ウィジェットを生成する手続きは、最初の文字を大文字にした名前のメソッドになります。例えば、`canvas` は `Canvas` になります。

名前空間 `ttk` に属する手続きは、"`ttk$`" につづけて、最初の文字を大文字にした名前をつけたメソッドになります。例えば、`ttk::button` は `ttk$Button` になります。

24.3. イベントの扱い

Tcl/Tk は、イベントが発生すると関連付けられたプロシージャを評価します。この際、プロシージャ中にパーセント記号 `"%"` と一文字のアルファベットまたは記号が記述されていると、評価の前にその部分をイベントに付随するパラメータ値に置換します。例えば、マウスをクリックしたときに発生する `ButtonPress` イベントが発生すると、関連付けたプロシージャ中の `%x` や `%y` という部分をそれぞれマウスの `x, y` 座標数値に置換してから評価が行われます。置換文字列の一覧は <http://www.tcl.tk/man/tcl8.5/TkCmd/bind.htm> にまとめられています。

Gura はブロックでイベントハンドラを指定できますが、イベントのパラメータ値はブロック引数として受け取ります。このとき、ブロック引数の名前が、Tcl/Tk の置換文字列の名前に対応します。上の例を使えば、ブロック引数に `x, y` という名前の引数を指定すると、これらに `x, y` 座標値が入ります。一般の関数呼び出しの慣例では引

数の位置によって受け渡しする値を指定しますが、**Tcl/Tk** のイベントハンドラでは名前で受け取る値が決まることに注意してください。

また、**Tcl/Tk** が置換する結果は文字列になるので、数値など他の方で受け取りたい場合はブロック引数に明示的に型指定をしてください。

ブロック引数では、**Tcl/Tk** が定義する一文字の識別子のほかに、可読性を高めるため以下の別名も受け付けられるようにしています。

引数名	Tcl/Tk	引数名	Tcl/Tk	引数名	Tcl/Tk
serial	#	place	p	root	R
above	a	state	s	subwidget	S
numbuttons	b	time	t	type	T
count	c	width	w	widget	W
detail	d	x	x	x_root	X
user_data	d	y	y	y_root	Y
focus	f	char	A	action	d
height	h	border_width	B	index	i
widget_num	i	delta	D	wouldbe	P
keycode	k	send_event	E	current	s
mode	m	keysym	K	edited	S
override_redirect	o	keysym_num	N	validate	V

この対応づけは、`tk.bindSubstDict` 変数に辞書として登録されており、必要に応じて追加することができます。例えば、`%h` で置換されるイベントパラメータを `hoge` という引数名で受け取りたい場合は、以下のようなコードを追加します。

```
tk.bindSubstDict[`hoge] = "h"
```

24.4. モジュール関数

```
tk.bell(args*, opts%):map
tk.bind(args*, opts%):map
tk.bindtags(args*, opts%):map
tk.tkerror(args*, opts%):map
tk.update()
tk.winfo$atom(args*, opts%):map
tk.winfo$atomname(args*, opts%):map
tk.winfo$containing(args*, opts%):map
tk.winfo$interps(args*, opts%):map
tk.winfo$pathname(args*, opts%):map
tk.tk$FocusFollowsMouse(args*, opts%):map
tk.tk$SetPalette(args*, opts%):map
```

```
tk.tk$bisque(args*, opts%):map
tk.tkwait$variable(args*, opts%):map
tk.tkwait$visibility(args*, opts%):map
tk.tkwait$window(args*, opts%):map
tk.mainloop()
tk.tclDump(flag:boolean => true)
```

24.5. image クラスへの追加メソッド

tk モジュールをインポートすると、image クラスに以下のメソッドが追加されます。

```
image#to_tk()
```

24.6. tk.Widget クラス

```
Widget#wm$aspect(minNumber?, minDenom?, maxNumber?, maxDenom?):map
    Tcl コマンド: wm aspect window ?minNumber mindenom maxNumber maxDenom
```

```
Widget#wm$attributes(opts%):map
    Tcl コマンド: wm attributes window
```

```
Widget#wm$client(name?):map
    Tcl コマンド: wm client window ?name?
```

```
Widget#wm$colormapwindows(windowList?):map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$command(value?):map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$deiconify():map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$focusmodel(args*, opts%):map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$forget():map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$frame():map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$geometry(newGeometry):map
    Tcl コマンド:
```

```
Widget#wm$grid(baseWidth?, baseHeight?, widthInc?, heightInc?):map
```

Tcl コマンド:

Widget#wm\$group(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconbitmap(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconify(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconmask(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconname(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconphoto(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconposition(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$iconwindow(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$manage(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$maxsize(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$minsize(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$overrideredirect(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$positionfrom(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$protocol(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$resizable(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$sizefrom(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$stackorder(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$state(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$title(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$transient(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#wm\$withdraw():map

Tcl コマンド:

Widget#winfo\$(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#grid\$(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#place\$(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$bisque(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$chooseColor(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$chooseDirectory(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$dialog(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$focusFollowsMouse(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$focusNext(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

Widget#tk\$focusPrev(args*, opts%):map

Tcl コマンド:

`Widget#tk$getOpenFile(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$getSaveFile(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$menuSetFocus(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$messageBox(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$optionMenu(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$popup(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$setPalette(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$textCopy(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$textCut(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

`Widget#tk$textPaste(args*, opts%):map`

Tcl コマンド:

24.6.1. ウィジェット生成メソッド

例えば、**button** ウィジェットを生成するメソッドの一般式は以下のようになります。

```
tk.Widget#Button(options%)
```

このメソッドは、Tcl コマンドとして `"button pathName %options%"` を実行します。pathName は新しく生成する button ウィジェットのパス名、options は tk.Widget#Button メソッドに辞書形式で渡した引数の内容が渡されます。

ウィジェット生成メソッドの戻り値は、新しく生成したウィジェットのパス名を持った tk.Widget インスタンスです。menu ウィジェットや text ウィジェットのように、ウィジェット特有のメソッドを持つものについては、tk.Widget ク

ラスから派生したクラスのインスタンスを返します。

ウィジェット生成メソッドと、生成する Tk ウィジェットの対応表を以下にまとめます。

メソッド	生成する Tk ウィジェット	メソッドの戻り値
tk.Widget#Button	button	tk.Widget
tk.Widget#Canvas	canvas	tk.Widget
tk.Widget#Checkbutton	checkbutton	tk.Widget
tk.Widget#Entry	entry	tk.Widget
tk.Widget#Frame	frame	tk.Widget
tk.Widget#Label	label	tk.Widget
tk.Widget#Labelframe	labelframe	tk.Widget
tk.Widget#Listbox	listbox	tk.Widget
tk.Widget#Menu	menu	tk.Menu
tk.Widget#Menubutton	menubutton	tk.Widget
tk.Widget#Message	message	tk.Widget
tk.Widget#Panedwindow	panedwindow	tk.Widget
tk.Widget#Radiobutton	radiobutton	tk.Widget
tk.Widget#Scrollbar	scrollbar	tk.Widget
tk.Widget#Spinbox	spinbox	tk.Widget
tk.Widget#Text	text	tk.Text
tk.Widget#Toplevel	toplevel	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Button	ttk::button	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Checkbutton	ttk::checkbutton	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Combobox	ttk::combobox	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Entry	ttk::entry	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Frame	ttk::frame	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Intro	ttk::intro	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Label	ttk::label	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Labelframe	ttk::labelframe	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Menubutton	ttk::menubutton	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Notebook	ttk::notebook	tk.Notebook
tk.Widget#ttk\$Panedwindow	ttk::panedwindow	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Progressbar	ttk::progressbar	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Radiobutton	ttk::radiobutton	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Scale	ttk::scale	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Scrollbar	ttk::scrollbar	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Separator	ttk::separator	tk.Widget
tk.Widget#ttk\$Sizegrip	ttk::sizegrip	tk.Widget

<code>tk.Widget#ttk\$Spinbox</code>	<code>ttk::spinbox</code>	<code>tk.Widget</code>
<code>tk.Widget#ttk\$Style</code>	<code>ttk::style</code>	<code>tk.Widget</code>
<code>tk.Widget#ttk\$Treeview</code>	<code>ttk::treeview</code>	<code>tk.Treeview</code>
<code>tk.Widget#ttk\$Widget</code>	<code>ttk::widget</code>	<code>tk.Widget</code>
<code>tk.Widget#ttk\$Image</code>	<code>ttk::image</code>	<code>tk.Widget</code>
<code>tk.Widget#ttk\$Vsapi</code>	<code>ttk::vsapi</code>	<code>tk.Widget</code>

24.7. tk.Menu クラス

```
Menu#Separator(opts%)
Menu#Cascade(opts%) {block?}
Menu#Command(opts%) {block?}
Menu#Checkbutton(opts%) {block?}
Menu#Radiobutton(opts%) {block?}
```

24.8. tk.Canvas クラス

```
Canvas#Tag() {block?}
```

24.9. tk.CanvasItem クラス

24.10. tk.CanvasTag クラス

24.11. tk.Text クラス

24.12. tk.TextTag クラス

24.13. tk.Notebook クラス

24.14. tk.Treeview クラス

24.15. tk.TreeviewItem クラス

24.16. tk.TreeviewTag クラス

24.17. tk.FontT クラス

24.18. tk.Image クラス

24.19. 注意事項

Tk イメージオブジェクトは、明示的に `destroy()` を実行しないとメモリから削除されません。

25. データベース – sqlite3 モジュール

25.1. 関数

```
open(filename:string) {block?}
```

25.2. sqlite3 クラス

```
sqlite3.sqlite3#close()
```

```
sqlite3.sqlite3#exec(sql:string):map
```

```
sqlite3.sqlite3#getcolnames(sql:string):map {block?}
```

```
sqlite3.sqlite3#query(sql:string):map {block?}
```

```
sqlite3.sqlite3#setprop!(symbol:symbol, value):map
```

```
sqlite3.sqlite3#transaction() {block}
```

26. オーディオ

26.1. wav

27. アーカイブファイル – gzip モジュール

```
gzip.open(name:string, mode?:string, encoding:string => "utf-8")
```

```
gzip.decomp(stream:stream, winbits?:number)
```

```
gzip.comp(stream:stream, winbits?:number)
```

```
stream#gzipdecomp(winbits?:number)
```

```
stream#gzipcomp(winbits?:number)
```

28. アーカイブファイル – bzip2 モジュール

```
bzip2.open(name:string, mode?:string, encoding:string => "utf-8")
```

```
bzip2.decomp(stream:stream)
```

```
bzip2.comp(stream:stream)
```

```
stream#bzip2decomp()
```

```
stream#bzip2comp()
```

29. アーカイブファイル – zipfile モジュール

ZIP アーカイブの操作をするモジュールです。このモジュールをインポートすることで、以下の関数の機能が拡張されます。

- open 関数で ZIP アーカイブ中のファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、ZIP アーカイブ中のファイルパス名を指定できるようになります。
- path.dir, path.walk, path.glob 関数で、ZIP アーカイブ中のディレクトリパスをサーチできるようになります。

29.1. 関数

```
zipfile.open(pathname:string) {block?}
```

```
zipfile.create(pathname:string) {block?}
```

29.2. zipfile.zipfile クラス

```
zipfile.zipfile#add(stream:stream, filename?:string):map:reduce
```

```
zipfile.zipfile#each() {block?}
```

```
zipfile.zipfile#close():reduce
```

29.3. zipfile.stat クラス

メンバ	データ型	内容
filename	string	ファイル名
comment	string	コメント

mtime	datetime	最終更新日時
crc32	number	CRC32 チェックサム
compression_method	number	圧縮形式
size	number	圧縮前のサイズ
compressed_size	number	圧縮後のサイズ
attributes	number	アトリビュート

30. アーカイブファイル – tar モジュール

TAR アーカイブの操作をするモジュールです。通常の TAR ファイルに加え、gzip で圧縮された TAR ファイル（サフィックス `.tgz` または `.tar.gz`）および bzip2 で圧縮された TAR ファイル（サフィックス `.tar.bz2`）も処理できます。このモジュールをインポートすることで、以下の関数の機能が拡張されます。

- `open` 関数で TAR アーカイブ中のファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、TAR アーカイブ中のファイルパス名を指定できるようになります。
- `path.dir`, `path.walk`, `path.glob` 関数で、TAR アーカイブ中のディレクトリパスをサーチできるようになります。

30.1. 関数

```
tar.open(pathname:string) {block?}
```

```
tar.create(pathname:string) {block?}
```

30.2. tar.tar クラス

```
tar.tar#add(stream:stream, filename?:string):map:reduce
```

```
tar.tar#each() {block?}
```

```
tar.tar#close():reduce
```

30.3. tar.stat クラス

メンバ	データ型	説明
name	string	ファイル名
linkname	string	
uname	string	
gname	string	

mode	number	
uid	number	
gid	number	
size	number	
mtime	datetime	
atime	datetime	
ctime	datetime	
chksum	number	
typeflag	number	
devmajor	number	
devminor	number	

31. テキスト処理 – re モジュール

正規表現のエンジンとして鬼車 (<http://www.geocities.jp/kosako3/oniguruma/>) を使用しています。正規表現パターンの詳細は、上記のホームページをご覧ください。

正規表現処理では、一つのファンクションで 3 つの呼び出し形式があります。状況に応じて適切な表記方法を選んでください。

関数	re.pattern メソッド	string メソッド
re.match	re.pattern#match	string#match
re.scan	re.pattern#scan	string#scan
re.split	re.pattern#split	string#splitreg
re.sub	re.pattern#sub	string#sub

31.1. 関数

`re.match(pattern:string, str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map`
`re.match` インスタンスを返します。

`re.pattern(pattern:string):map:[icase,multiline]`
`re.pattern` インスタンスを返します。

`re.scan(pattern:string, str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?}`

`re.split(pattern:string, str:string, count?:number):map {block?}`

`re.sub(pattern:string, replace, str:string, count?:number):map`

31.2. re.match クラス

```
re.match#end(index):map
```

```
re.match#group(index):map
```

```
re.match#groups()
```

```
re.match#start(index):map
```

31.3. re.pattern クラス

```
re.pattern#match(str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map
```

```
re.pattern#scan(str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?}
```

```
re.pattern#split(str:string, count?:number):map {block?}
```

```
re.pattern#sub(replace, str:string, count?:number):map
```

31.4. string クラスへの追加メソッド

re モジュールをインポートすると、string クラスに以下のメソッドが追加されます。

```
string#match(pattern:regex, pos:number => 0, endpos?:number):map
```

```
string#sub(pattern:regex, replace, count?:number):map
```

```
string#splitreg(pattern:regex, count?:number):map {block?}
```

```
string#scan(pattern:regex, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?}
```

32. テキスト処理 - csv モジュール

CSV ファイルの読み書きを行います。

32.1. 関数

```
csv.parse(str:string):map
```

```
csv.read(stream:stream) {block?}
```

```
csv.write(stream:stream, elem[])
```

```
csv.writes(stream:stream, iter:iterator)
```

32.2. stream クラスへの追加メソッド

```
stream#csvread() {block?}
```

33. テキスト処理 – xml モジュール

XML ファイルの読み書きを行います。

33.1. 関数

```
xml.element(name:string, attrs%) {block?}
```

```
xml.parser() {block}
```

```
xml.read(stream:stream)
```

33.2. stream クラスへの追加メソッド

```
stream#xmlread()
```

34. テキスト処理 – yaml モジュール

YAML ファイルの読み書きを行います。YAML ファイルのフォーマットについてはオフィシャルサイト <http://www.yaml.org/> を参照ください。

34.1. 関数

```
yaml.compose(obj)
```

```
yaml.parse(str:string)
```

```
yaml.read(stream:stream)
```

```
yaml.write(stream:stream, obj):reduce
```

34.2. ストリームクラスへの追加メソッド

```
stream#yamlread()
```

```
stream#yamlwrite()
```

35. プラットフォーム – win32 モジュール

```
win32.olecreate(progid:string):map:[import_const]
```

```
win32.oleconnect(progid:string):map:[import_const]
```

35.1. win32.regkey クラス

```
win32.HKEY_CLASSES_ROOT
```

```
win32.HKEY_CURRENT_CONFIG
```

```
win32.HKEY_CURRENT_USER
```

```
win32.HKEY_LOCAL_MACHINE
```

```
win32.HKEY_USERS
```

```
win32.HKEY_PERFORMANCE_DATA
```

```
win32.HKEY_DYN_DATA
```

```
regkey#createkey(subkey:string, option?:symbol, samDesired[]?:symbol:nomap):map {block?}
```

```
regkey#deletekey(subkey:string):map:void
```

```
regkey#deletevalue(valueName:string):map:void
```

```
regkey#enumkey(samDesired[]?:symbol):[openkey] {block?}
```

```
regkey#enumvalue()
```

```
regkey#openkey(subkey:string, samDesired[]?:symbol:nomap):map {block?}
```

```
regkey#queryvalue(valueName?:string):map
```

```
regkey#setvalue(valueName:string, data:nomap):map
```

36. プラットフォーム – uuid モジュール

```
uuid.generate():[upper]
```

37. 開発ツール

37.1. lets_module

コマンドラインから使用します。「Gura 開発者向けマニュアル」を参照ください。

37.2. module_builder